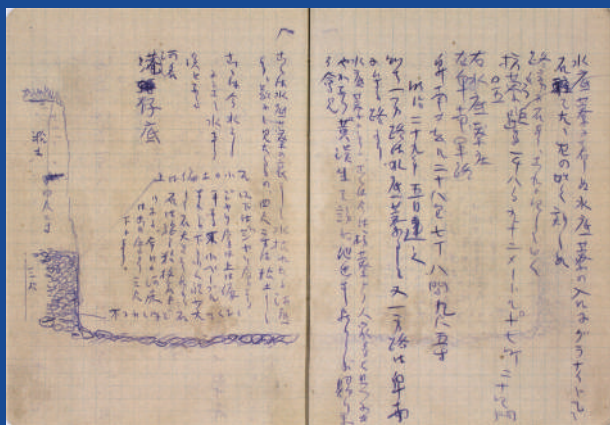
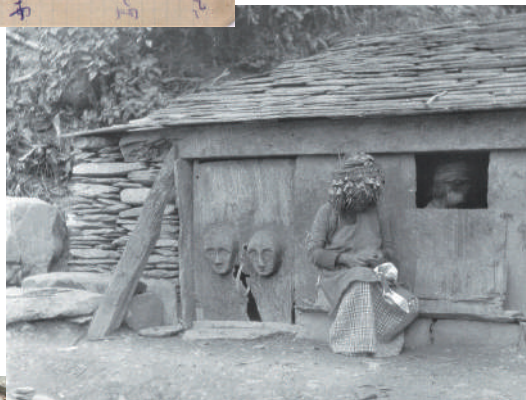


鳥居龍蔵の台湾調査と現代

フィールドノート
たかまごのたび (一)

人面彫刻のあるスレート造りの家屋



パイワン族旧社の現状

鳥居龍蔵は、1896(明治29)年から1910年にかけて、都合5回の台湾調査を実施している。その中でも第4回調査は、9ヶ月間という長い調査期間を設定し、台湾の中央山脈を縦走したことで知られる。彼はその過程で、パイワン族、ブヌン族、タイヤル族など多くの原住民族に接し、台湾社会への理解を深めていった。

今回の展示では、第4回調査の最初期に出会ったパイワン族の村をとりあげ、調査の様子を振り返る。その際、パイワン族社会の現在の取り組みにも焦点をあて、鳥居が残した資料の現代的価値を考えてみたい。

2023

4.18_火 ▶ 7.23_日

● 展示場所

徳島県立鳥居龍蔵記念博物館 常設展示室 第2展示室内

● 開館時間

9:30 ~ 17:00

● 休館日

毎週月曜日 ※ただし、7月17日[月・祝]は開館。18日[火]は休館

● 観覧料

通常の常設展観覧料(一般200円、高校・大学生100円、小・中学生50円)

※祝日無料 ※各種減免あり

現地住民から遺跡の説明を聞く

